創刊号
昭和48年11月1日

大阪産業大学校友会報

発行所　大阪産業大学校友会（大阪産業大学内）
大東市中垣内3の1の1　〒574
電話（0720）71-1251（内線200）
発行責任者　大阪産業大学校友会　堀川孝
印刷所　（株）新晃社
大東市川保537番
電話（06）788-8421（代）

創刊なる！

この公害騒ぎの世にあってもグチや不平を言うでもなく、又忘れることもなく、サボルこともなく、今年も窓から見える柿の木には、たわわな枝が赤く色づき、田畑では秋の取入れに忙しい昨今、ほんとうに、大自然の生命力と、その自然の妙には、ただただ驚かされます。

ひきかえ、この秋に恒例となった大阪産業大学校友会総会が訪れてまいりましたが、例年日が浅いと言う負い目はあるにせよ、年に一度の総会は閑古鳥が鳴くしまつ、誠に残念でしかありません。

あの果敢で大いなる夢に、限りない可能性に議論し、不撓不屈の勇気を共に育て、再会を誓ったあの日々はどこへ消えてしまったのだろうか。道端の名もない草にも、春の訪ずれとともに花をほころばせるなかで。

卒業生に開かれた唯一の窓である校友会に、こうまで我々を遠ざけさせるのは、一体何なのか。これは校友会、又大学に問題があるのだろうか。それとも社会が、こんなロマンを受けつけぬ程、厳しく、忙しいものか、又卒業生にあるのか、そして一体校友会又出身学校（母校）とは何なのか。

こんな想いのなか、総会までに校友会々報（仮称）創刊の話が出たが、時間等のためデットロックしているとの事。現在からでは決して望む様なものの編集は困難ではありますが、創刊なければ継続なし。多くの足らざるは、今後すべての校友の皆様に、参加、御指導を頂き、立派な機関紙を必ず共に、この手にすることを願いつつ信じ、母校の様子と近況だけでも報告し、この低迷する校友会並びに、大阪産業大学を共に叱咤、激励しとに又皆様方の親睦と爽やかさ・一時の懐しさをと、創刊に踏みきった次第です。

我々の母校産大は、残念ながら低迷しております。外においては賛否はあれど、筑波大学等も誕生し、大学教育実体、及び制度において根本的な問いかけが成され、特に私立大学にとっては、ここ数年の将来計画と、その教育姿勢、方針が大学の存在を左右すると言えるこの期、この低迷は卒業生として、見過す訳にはいかない。

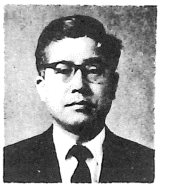
我々卒業生は大学の将来について、その政策・運営に参与並びに意見を述べる権利と責任を共に持っていることは、大学の憲法たる寄附行為に明記されている。よって、この大学の低迷は独り大学のみに、その責を負わすことはできないのではないか。我々卒業生に開かれたこの権利を十分に活用し、積極的に参与し、又その責任をも分有しなくては、と考える私ですが皆様は如何お考えですか。

どうか、大学に対する、きたんのない意見を述べるにも、又若きロマンと汚れを知らない社会倫理を育てた、あの学生生活のあの友との再会など、絶好の機会と考えますので、今年催されます校友会総会には、皆様多数のご出席をお願い申し上げます。

時間に追われたとは申せ、創刊号と言う、校友会の将来を占うとも思われる重要な機関紙でありながら、体裁も整わないことを、深くお詫びし、創刊にいたる経過報告といたします。

ごあいさつ

校友会会長　堀川　孝



会員のみなさん、お元気でご活躍のことと思います。

私は本大学の前身であります大阪交通短期大学運輸科の一期生として、昭和三十七年に卒業しました堀川でございます。よろしくお願いします。

現在大阪鉄道管理局の厚生課に勤めております。

卒業当時は会員数も少なかったので学園同窓会として高校と一諸でしたが、四十四年度の大阪交通学園同窓会総会において、短大、大学の校友より短大の卒業生も、二千名を越え、今後大学卒業生が年々ふえていくので、別個に組織してはとの意見が出され、役員会で数回検討ののち、昭和四十五年一月一日付で、大阪産業大学校友会として発足したのであります。校友会総会も第三回を数えました。

一回は学内で開催しましたがさみしいものでした。昨年は大阪市内に会場を移し会員のみなさんに「PR」した甲斐もあり盛大な総会となりました。これには役員の方々の苦労があったことは云うまでもありません。

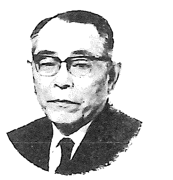
雨降って地固まると云われますように会員数も六千名を越すにいたりました。校友会事務局も学内に設けられ会員のみなさんと連絡をとっておりますので、どうぞお気軽にお立寄り下さい。

本年度は会報の発行を目標に役員会を重ねてまいりました。大学の概要も知って頂き大学の発展とともに私たちの校友会も立派なものにしたいと、役員一同意気ごんでおりますが、今その緒についたばかりです。

会員名簿の整理など回を重ねて内容の充実に努めてまいりますので、今後ともよろしくご協力をお願いいたしまして私のあいさつといたします

創刊によせて

理事長　長藤友三郎



わが大阪交通学園が本年創立四十五周年を迎えるに当たり、先に大阪鉄道高等学校（大阪交通学園同窓会）において同窓会々報が発刊され、引き続いて校友会々報が創刊発行されることになりましたことは学園の発展のために洵に喜ばしく心からお祝い申し上げます。

明治以来わが国の発展成長は教育の普及進展に負うところ極めて大なるものがあり、わが学園も四十五年の長年月その職域に奉仕し多くの人材を輩出して国家民族のために貢献してきたことは顧みて大いに誇るべきものと存じます。

ご承知の如く本大学は学園創立者瀬島源三郎先生の教育に対する非常なる熱意と努力により、昭和二十五年大阪交通学園短期大学を設立されたことに始まり、時代の要望に応えて年々拡充成長を続け今日の大阪産業大学に発展したものであります

短大設立来既に二十四年の星霜を経て卒業生数、短大四、〇一三名、大学二、九〇四名、合計六、九一七名の有用なる人材を社会に送り出し、それらの諸氏が各方面で活躍しておられることは誠に心強く同慶に堪えない次第であります。

校友会の活動も年毎にその数を加えるに従い高校同窓会との協力の下に益々充実し学園のためにご支援をいただいており感謝に堪えないところでありましたが今回会報が創刊されて校友会各位の交流連携がいよいよ緊密、強力になりますことは重ねての喜びでありその意義を高く評価するものであります。

私は昨年五月、はからずも第三代目の理事長に就任し、爾来一年六ヶ月流動する時流に堪え学園経営に微力ながら鋭意努力してまいりましたが近時の私学は教学面においても経営面においても数多くの困難な問題を抱えております。

しかしながら国土は狭隘、人口は過剰、加うるに資源貧困なわが国では教育により国民全員の知能技術の向上練磨によって国際場裡の競争に堪えるの外なく、一言にして言えば教育立国がわが国の宿命であります。

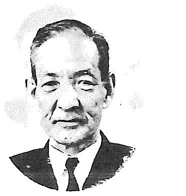
しかも一国の教育行政がその大半を私学に委ね、これに依拠せざるを得ない現状においては、私はわが大学に課せられた使命を深く感得し、現実の社会の要請に応えながら山積した諸問題の解決を図り、国家のため真の教育の理念の達成に全力を傾注したい所存であります。

更に学園の将来については長期的な視野に立って多くの理想、ビジョンを描いており、一日も早く名実共に充実した総合大学を実現し、校友会の各位にもより誇り高き母校となりますよう努力致したいと存じますので何卒この上共一層のご協力ご支援をお願い致します。

本学園の今日の発展は創立者瀬島先生はじめ歴代の役員並びに学長、教職員、校友会、及び同窓会の皆様の長年にわたる並々ならぬご苦労、ご協力の賜ものであるものとここに改めて深く感謝申し上げると共に、今回会報の発刊にご努力ご奔走されました校友会の各位に敬意を表し、校友会並びに本会報が益々充実発展されんことを切に祈るものであります。

大阪産業大学を語る

学長　木平孝男



秋も深くなれば夜寒も感じると無性に本を読みたくなる。空が澄みわたると心が躍り、山野を駆け巡りたくなる。学内では阪駒祭も始まり、今日この頃は楽しみに満ちた実り多い秋である。

同窓の皆様にはご健勝でご活躍のほど何よりも心強く、まことに喜ばしいことです。

大学は単に学生や教職員の集団ではない。創立以来ここで学び教えを受けた者すべて、理事会・評議員会・出版物・研究活動等、広く直接間接に関係ある総てを包括したものが融合して大学を構成している。大学の寿命は無限で、決して静止しているものでない。従って、多くの関係者の間に理解と寛容の精神が存在しない限り円満な発展は望めない。どこの国でも未来を守り抜くための第一手段として、あらゆる方面で大学教育を重視し、指導者を提供する大切な供給源となっている。日本の私学では全国学生の約八割近くの学生を預っている。昭和五十年以降進学率の向上にともなって、さらに二十数万人が増加するものと推定され、その大部分が私学でまかなわねばならない状態である。私学の規模が大きくなり、教育が多方面に展開され、おびただしい費用を要するとともに絶大な重要性をもっている政府の私学に対する補助は、七十九の国立大学（学生数三十万人）に対し約四千億円、三百九十余の私立大学（学生数百二十万人）に対して僅かに約五百億円が計上されているに過ぎない。学校数学生数とも私学は国立の四倍でありながら、国立大の四十分の一程度の公費しか支出していない。当大学の人員構成は表の通りで私大特有な財政困難は当大学のみ、あち外ではない。

教学上の問題の根本は教職員と学生との人間的、学問的な触れ合いであり、プロゼミ、ゼミナール、卒研などきめこまかい指導を実施している。今後少人数の教育えと希望を持ち検討中である。なお幸いにも教育界に経験のある教授、研究心を燃やし続ける若い学者とが揃って心強い。

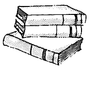
学生問題では、去る十月、外部の連中が鉄パイプを準備し学生自治会室になぐり込むなどの、思わぬハプニングがあった。当大学は一般的に平穏なふん囲気だと判断している。学生諸君との対話の場も多く持っている。然し教学予算が圧縮され、学生諸君の勉学への熱望に応える諸問題が積み残されている。一日も早く実現させなければならない課題である。

なお、当大学の長期ビジョンについては慎重に検討し、学部学科の新増設、そのための土地の入手も進んでいる。我が大阪産業大学が、教育研究の府として名実ともに充実した総合大学へと発展する日は、そう遠くはない。

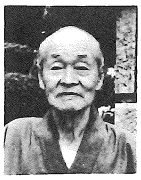
48－10－20現在調

	経営学部	工学部	短期大学部	計
学生数	2.147	3.088	609	5.844

	専任	非常勤(臨時)	計
教員	106	127	233
技術員	39	6	45
事務員	67	13	80
計	212	146	358



発刊によせて



創立者　瀬島源三郎

先日は同窓会報が私の手元に届きましたが、今度は大学の校友会報が発刊されるとのニュースに今また生きている喜びを感じております。御周知のように四年制大学は昭和三十九年に認可されまして、今年はもう五期の卒業生を送り出したと云うことですが、大学の母体とも云うべき短期大学の方はすでに昭和二十七年から二十三期の卒業生を世に送り出しています。私が短期大学、そして四年制大学の設立を考えましたのは、従来私学教育は一貫教育（つまり小学校から大学までの教育）を旨とすべきだと考えたからであります。それと実業教育を主としてきました鉄道高校に加えてさらに高度の知識と技術を身につけることが出来るようにと云うのが当初の方針でありました。しかし老の坂を登りつめた私にとってはとうてい背負うことの出来ない重荷でした。大学設置基準に加えて全国でも他に札幌にしかないと云う交通機械科の設置はその仕事をいっそう困難にしました。そういった困難にもめげず当時の若い力は見事になしとげてくれました。私の三男であります瀬島浩を始め、大西利治氏、今は退職された小倉栄蔵氏、そして事務では林大行氏杉岡重武氏といった人達であります。勿論教学の面でもお世話になった先生方も沢山おられます。こういった若いエネルギーは大阪産業大学の産みの母ともいえるものであります。

大学の使命ということについてはいろんな意見があると思いますが、まもなく十年を迎える大学はその歩み行く方向を定めなければならないと思います。私は先程実業教育という言葉を使いましたが、本来大学に於けるアカデミズムというものは象牙の塔ともいわれ、プラグマティラなものは排除される傾向がありますが、社会的な機能面から考えますと、この考えはいった権威のある研究機関は少く、大学がその性格を帯びてくるのはある程度仕方のないものかも知れませんが、従来、アカデミズムという考え方が西欧から受け継がだものであるとすれば、日本では、日本の大学のあり方を今一度考えていく必要があるのではないかと思うのです。

この実現可能性は、医学に基礎と臨床があり、それが共存しているように可能であるとも思うのです。遠くにある理想は、目の前にある階段の一歩を登らねばなりません。今、大学はやっと最初の一歩をふみ出したばかりの初年期にあります。これからは精神的充実を目指さなければなりません。成熟の土壌は大学人であり、その肥しとなるものは大学を見守る卒業生の方々だと思っております。

皆様方には、大阪産業大学の今後の発展の為に暖かい御支援下さる事をお願いいたします。行末の短い私には大学の将来に夢をはせるのみですが、卒業生の方々、そして学内の方々には大学を育てる現実的な力があります。大学の理念と社会の発展の為に、それらを融合させる触媒となっていただきたくお願い申し上げる次第であります。

校友会活動報告

大阪産業大学校友会々報の創刊にあたり最近一ケ年間の活動状況について簡単に報告しますまず総会ならびに懇親会については例年、「文化の日」の十一月三日、大学祭「阪駒祭」期間中に大学西部学舎において開催していましたが、文化会・体育会等各クラブのOBが多数来学され大学祭の方は毎年にぎやかですが校友会々場の方には時間の都合からか出席者が少ないので、一度日時と場所を変えて開催してはどうかとの意見が多かったので、昨年は十一月二十六日(日)大阪市北区牛丸町　弥生会館で定期総会を開いたところ、交通の便のよさもあって、例年になく多数の出席者があり、大変盛大かつこやかなうちに終了しました。

次に代議員会について列記しますと、

十二月十三日(水)　於校友会事務室

一、学生団体（クラブ）に対する助成金の規則について

昭和四十七年度定期総会において、今後助成していくのであれば規則として成文化しておく必要があるとの意見に基づき、学内代議員で原案を作成した。

一月十八日(木)　於　国鉄大阪クラブ

一、学生団体に対する助成金の規則について

十二月十三日の学内代議員で検討した原案を逢上審議し、昭和四十八年一月十八日付で施行することを承認した。

一、昭和四十七年度事業について

(イ)　会員名簿発行の件

昭和四十八年の発行については、できるだけ現住所、勤務先の調査をし、大阪交通短期大学一期生からの名簿を印刷することとなった。

(ロ)　記念植樹の件

昭和四十七年度予算（十五万円）に基づき、記念植樹（ヒマラヤシーダ三十本）を卒業年度および校友会名を表示の上学内に植樹することについて承認。

(ハ)　学生団体に助成の件

昭和四十七年度予算（三十万円）に基づき、学内代議員より本年は野球部および小林寺拳法部に、各十万円を助成することを事務当局案通り承認し、残り十万円について検討した結果、「テント」を大学に寄贈することを追加承認した。

六月四日(月)　於　国鉄大阪クラブ

一、昭和四十八年度事業計画ならびに予算案に関する件

事務担当の島岡氏から、学内代議員で検討した事業計画と予算案について詳細に説明があったのち、本年は

(1)　組織の強化を計ると共に支部結成のための助成金と運営費の計上。

(2)　準会員については、入学時に校歌「ソノシート」の配布を行なうことを承認した。

一、新代議員選任の件

島岡氏より、四十五年度以降の代議員の選任が行なわれていないので、学内代議員で協議したところ、四十五年度、清水正博（経営）、四十六年度、近藤茂（経営）、四十七年度、大植義夫（二部工学）の三名が適任ではないかとの意見が多かったので推せんした旨説明があり、異議なく原案通り承認した。

一、会員名簿整備の件

堀川会長より、校友会発展の最も基礎になるのは、会員名簿の充実であるとの提案に基づきその方法について話し合った結果、事務当局より各期の代議員に依頼して整備することになった。

十月十一日(水)　於　国鉄大阪クラブ

一、昭和四十八年度定期総会並びに懇親会について

(1)　日時・場所については、会場の都合があるので会長に一任することになった。（後日、十一月二十五日(日)午后三時より大阪リーサイドホテルに決定）

一、代議員の選任方法及び代議員会について

堀川会長より、一般会員より代議員の選任方法について疑義の意見がでている、また代議員会を開催しても出席者が少ないので、何かよい方法を考える必要があると提案され、審議の結果、学内代議員で充分に検討の上、次の総会で一部規約改正を提案して承認を得ることになった。

一、機関誌の発行について

島岡氏より、高校同窓会が創立四十五周年を記念して、会報を発行されたが、大学でも、できれば本年の総会までに発行できないかとの提案があり、種々審議の結果、学内代議員に一任することになった。

大阪産業大学校友会役員

会長　堀川　孝（1）
副会長　石川信男（8）
〃　梅木春雅（12）
監事　林　大行（2）
〃　奥田昭一（6）

林　大行

石川信男

奥田昭一

梅木春雅

代議員（卒業期）

代議員　天川重利（2）
〃　植田敏夫（2）
〃　杉岡重武（3）
〃　小村一郎（4）
〃　岡本忠温（9）
〃　森本克彦（10）
〃　浅田弘太郎（10）
〃　福西輝雄（11）
〃　真田卓克（12）（12産大1）
〃　東井清（12）
〃　江本和史（13）
〃　住友征三（13）
〃　高浪洋一（14）
〃　東本政美（14）
〃　仲元幹夫（14）
〃　上野晃（15）
〃　梅本昌則（15）
〃　谷口義清（15産大1）
〃　世古継生（15産大1）
〃　森下豊（産大2）
〃　清水正博（〃3）
〃　近藤茂（〃4）
〃　大植義夫（〃5）

昭和48年度予算

収入の部

科目	金額	摘要
前期繰越金	6,435,585	
会費収入	4,400,000	入学生1,800名　卒業生400名
雑収入	200,000	利息及び総会会費
合計	11,035,585	

支出の部

科目	金額	摘要
会議費	200,000	総会、代議員会、学内会議
通信費	150,000	総会、入会案内他
印刷費	150,000	総会、入会案内他
会員名簿	867,000	一期生より
学生助成金	300,000	優秀クラブ奨励
記念費	200,000	ソノシート及び植樹
調査費	200,000	名簿整備等
支部助成金	100,000	支部発会祝等
支部運営費	100,000	支部運営助成
機関紙	300,000	7,000枚
備品	50,000	ロッカー他購入
消耗品	50,000	封筒他
積立金	6,000,000	定期預金
次期繰越	2,368,585	
合計	11,035,585	

昭和47年度決算書

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
前期繰越金	2,498,937	印刷費	420,690
入会金	3,408,000	通信費	162,895
寄付金	49,000	会議費	150,470
同窓会	283,694	学生助成金	300,000
貸付金戻入	1,500,000	記念品費	187,000
総会会費	60,000	記念植樹	150,000
名簿販売	8,500	備品	91,000
受取利息	132,939	消耗品	36,250
		雑費	7,180
		次期繰越	6,435,585
合計	7,941,070	合計	7,941,070

昭和48年度大阪産業大学校友会

総会案内

●日　時　11月25日(日)　PM３：00

●ところ　大阪リバーサイドホテル

●会　費　￥1,000

大阪市都島区中野町５―10―160

大阪リバーサイドホテル

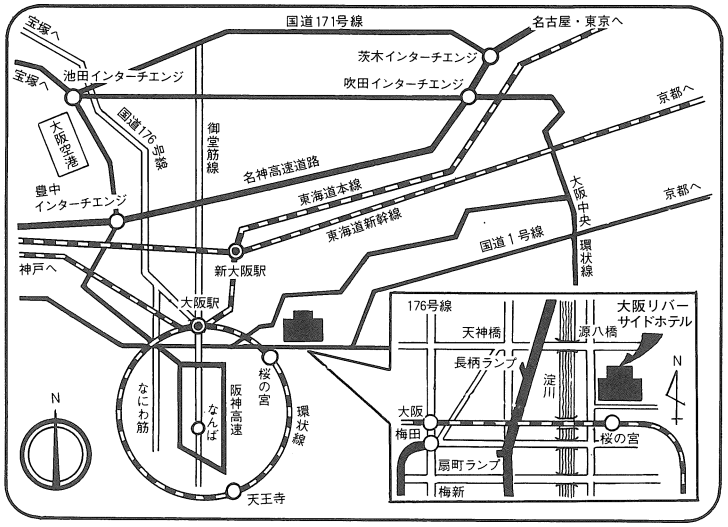
TEL　06（928）３２５１（代表）

〈お願い〉

●会員名簿の充実をはかる為、会員諸兄の住所変更及び転居の際は校友会事務室迄ご連絡下さい。

●総会当日ご出席の方はホテル及附近に駐車場がございませんので、電車・バスの交通機関をご利用下さい。

《会場ご案内図》



近況報告

(1)　体育館建設について　来春三月には基礎工事を着工する予定となった。多年懸案事項であった体育館の建設問題は昨年十月建設敷地を西部校舎五・七号館東側に決定し、今春三月に着工を計画していたところ、昨年秋以来の建築資材の未曾有の急騰と資材不足等によりやむなく着工を見合わせざるを得ない状況となって誠に遺憾ながら今日に至ったが、本体育館の概要は次のとおりである。

主要室規模
主体育室　バスケットボール正式コート（二八×十五米）三面
収容人員　四・一〇〇名（パイプ椅子搬入した場合の収容人員三、九九四名　その他観覧席に一〇〇名）
剣道場・柔道場　百六十畳
更衣室　利用人数　七九二名
(2)　グラウンド用地購入　西部校舎の五・七号館東側のグラウンドが体育館の建設敷地となったのでその代りのグラウンドを大学校舎の周辺に求めていたところ、去る八月上旬、大東市大字竜間（九二〇―十六生三三駒山連山）に面積　六、五三六平方米のグラウンド用地を購入した。

建物規模
建物面積　三、三五九平方米
延床面積　四、五九五平方米
床面積
一階　三、三五九平方米
二階　一、二〇〇平方米

(3)　構内整備について　教育環境をより整備するために緑化運動を促進し、また、教職員・学生の自家用自動車の構内乗り入れに対して来る十一月一日より構内規制の措置を講じることになった。

大阪交通学園役員

理事長　長藤友三郎（万年興産㈱社長）
常務理事　大西利治（学園事務局長）
理事　瀬島源三郎（学園創立者）
〃　西島伊武（日立造船㈱陸機設計事務所長）
〃　木平孝男（大学学長）
〃　小川一郎（高校校長）
〃　武貞利隆（大学教養部長）
〃　浦上三雄（大学事務部長）
〃　清川正雄（同窓会幹事・㈱清川興産社長）
〃　伊坪正治（大末建設㈱監査役）
〃　青柳英夫（松下電器産業㈱人事部長）
〃　多田羅甚太郎（PLP常務理事）
監事　森実（森税理士事務所）
相談役　鈴木倍民
〃　瀬島清

大阪交通学園評議員

木平孝男　小川一郎
大西利治　武貞利隆
崎山一雄　浅野剛
大井次男　浦上三雄

学園並に大学役職者

長谷川暁　市原照次
宇野耕治　大平和昭
杉岡重武　豊田鋼二
中野真宏　堀江宏一
三浦恒久　岡本清
山本寛一　清川正夫
堀川孝　石川信男
林大行　五十嵐敬一
上田喜代次　河石繁明
川島昌治　国政真男
多田羅甚太郎　富田幸男
西島伊武　山本栄吉

事務局長　大西利治　総務部長　林大行
財務部長　三原隆輔　総務課長　吉岡政暁
職員課長　飯島利武　管財課長　堀江宏一
経理課長　清水正明

大学・短大学長　木平孝男
大学・短大副部長　豊田鋼二　教養部長　武貞利隆
経営学部長　崎山一雄　工学部長　浅野剛
短大部長　大井次男　教務部長　前野源之助
学生部長　巽巌　図書館長　鳥居駿逸
産業研究所長　相川長彦　保健管理センター所長　佐々木季邦
事務部長　浦上三雄　庶務兼管理課長　杉岡重武
会計課長　橋本紀治　教務課長　上杉欽治
学生課長　藤野清久　就職課長　平岡惣一
入試事務長　橋本二郎　二部事務長　梅本昌則
図書事務長　中村真策　産業研究所事務長　瀬川夏夫

クラブ報告

少林寺拳法部記録

挙禅一如・自他共の本旨より、行動する少林寺を目標とした今年。

一、百畳の自主道場の完成

一、関西学生少林寺拳法大会にて、

総合の部……入賞

演武の部……優秀賞

一、関西少林寺拳法大会にて、

演武の部（二段）…最優秀賞

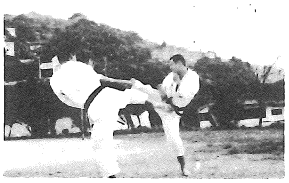
一、東大阪少林寺拳法大会にて、

総合の部……最優秀賞

演武の部……最優秀賞

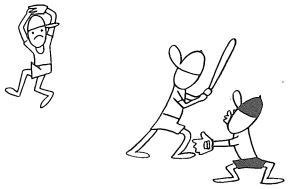
以上四大会にて優秀な成績を、おさめました。

尚、今年度の副将（小田）が二万人を擁する、関西学生少林寺拳法連盟の会長に推薦されましたこと、併てご報告致します。



野球部報告

阪神リーグ加盟の野球部は、昨年秋季リーグ（二部）で優勝し一部昇格をはたし四八年度春季リーグ一部での成績は三勝九敗（勝点一）であった。その状況をみると、優勝経験のある対甲南大学戦で勝点をあげ意気大いに上ったものの、一般的に力不足であった。打撃に関しては対大阪体育大学戦で最終回に三点をはね返し勝利を得たように他大学と同等かそれ以上であるが守備は内外野を問わず今後の課題である。投手力が勝敗のカギを握るこの競技において特に投手を整備しなければ今までと同様な結果に終るであろう。明るさとチームワークの良さが特徴である野球部の、なお一層の奮起と努力を期待する。



大阪産業大学校友会会則

第一章　総　則

（名称と目的）

第1条　本会は大阪産業大学校友会と称する。

第2条　本会は会員相互の親交を深め智徳を増進し併せて学校法人大阪産業大学発展に貢献することを目的とする。

（組　織）

第3条　本部は大阪産業大学内に置き会務を処理する支部は各都道府県毎に置く。但し必要あるときは代議員会の承認を得てこの他に置くことができる。会員少数のため支部としての構成ができないものは隣接支部に合体するものとする。

第二章　会　則

（会員の資格）

第4条　会員は次の三種とする『正会員』大阪産業大学、大阪産業大学短期大学、大阪産業大学短期大学部の卒業者、但し学校に在籍したことのあるものにして、代議員会の決議を経て正会員とすることができる。

『準会員』大阪産業大学同短期大学に在学するもの。

『特別会員』現職の教職員並びに母校学園の現職の理事、評議員、旧職員、及び代議員会で認めたもの。

（会　費）

第5条　会費は代議員会で決定し、詳細については別に定める。

第三章　役　員

（役員の数）

第6条　本会に次の役員を置く

会　長　1名
副会長　2名
顧　問（若干名）
監　事　2名
代議員　20名以内

会長は本会、一般の事務を総括する。

第7条　顧問は代議員会の議を経て会長が委嘱する。

副会長は会長を補佐し会長に事故ある場合はその職務を代行する。

監事は財務諸表を監査する。但し他の役員を兼務できない。

（役員の選任）

第8条　会長、副会長、監事は代議員会で選任する。

第9条　役員に欠員を生じた時は代議員会の決議を経て会長はこれを補充することができる。

第10条　役員の任期は次の通りとする。

①役員任期は2ケ年とする。

②欠員補充によって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章　事　業

第11条　本会の目的を達成するため左記の事業を行なう。

①会員名簿を作成、整備し随時新会員名簿を発刊する。

②母校と会員の連絡を密にするため機関誌を発刊する。

③その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第五章　総　会

第12条　会員に慶弔その他特別の事由あるときは本会の名において儀礼を尽すものとす。本案に関する規定は別に定める。

第13条　総会は毎年一回開催する。

第14条　臨時総会は代議員会の決議により必要と認められたとき臨時にこれを開く。

第15条　総会は次の事項を決議する。

①会則の改正
②会計報告
③会長において必要と認めた事項

第六章　代議員会

第16条　正会員中より1名、副議長1名を選出し、議長は会議を総括し会議の順序を定め会議を開閉、議場の秩序を保持する。副議長は議長を補佐し、事故あるとき、これを代行する。

第17条　代議員会は会長、副会長、代議員をもって組織する。

第18条　代議員会は会長が必要ある毎にこれを招集することができる。

第19条　代議員の3分の1以上の同意を得て代議員会の請求したるときは会長はこれを招集しなければならない。

第20条　代議員会は次の事項を決議する。

①総会の決議により附託された事項。
②会則に定められた事項。
③予算の実行に関する事項。
④予算案の作成に関する事項。
⑤会の目的達成のため必要なる事項。

第21条　代議員会は3分の2以上の出席をもって成立し、決議は出席者の過半数をもって可決する。

第22条　代議員会の決議に関しては不服を申し立てることはできない。

第七章　会計および監査

第23条　本会の会計は会費および寄附金、その他をもってこれに充てる。

第24条　本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日をもって終る。

第25条　決算は毎会計年度終了後2カ月以内に作成しこれにつき監事の意見を求め、監事はこれを総会時に報告する。

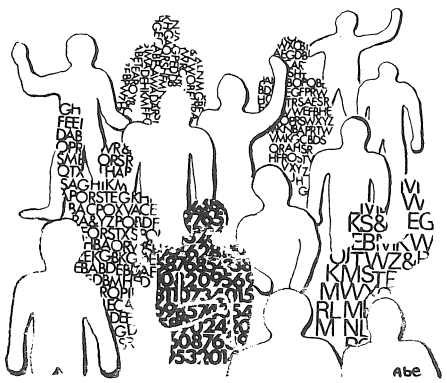
第八章　支　部

第26条　地域又は職域に支部を置く場合は、本部に報告し、代議員会の承認を得るものとする。

第27条　支部長は代議員会に出席し代議員と同等の権利を有する。

第九章　除　名

第28条　会員で本会の体面を汚し又は会員として不適当と認められるものは代議員会の決議を経て除名することができる。



大阪交通学園

聖高原〝山の家〟〔案内〕

所在地は、図にあるように信州の景勝地、夏に又冬に、四季を通じて一番いの場所としては最適の地です。

伸用できる人は、大阪交通学園の教職員及びその家族、学生、生徒校友会として同窓会の会員とします。

使用料は一泊一人五〇〇円、晩房賃一〇〇円、休憩（日帰り）二〇〇円、朝食一五〇円夕食三五〇円等です。和室、洋室、各室を通じて一日約七〇人迄宿泊できます。

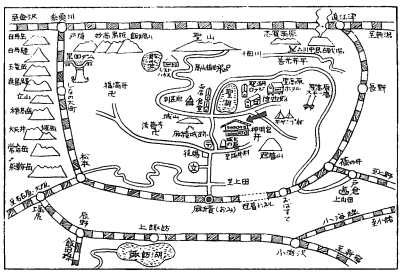
使用希望者は、使用の十日前までに申し出ることになっております。利用問合わせは

電話　〇七二〇(71)二五一
内線　二〇〇番

校友会室、島岡まで。

●所在地
麻績（おみ）駅より6キロ
長野県筑摩郡麻績村大字猿ケ馬場峰山5887の16
（TEL）麻績局026367－2133
役場分室

〔あし〕
中央本線松本駅下車、当駅より篠ノ井線に乗りかえ麻績駅（急行停車）所要時間約四〇分



編集後記

学業後の連絡を密にしよう。それは従来いろいろと言われてきました。一つの方法として会報の創刊ということになりました。いざ印刷ということになると、不備なところも多く、充分なものとはなりませんでした。しかし、これから回を重ねるにしたがって、会員相互の連絡のかけ橋になってゆくつもりでおります。第二号の発刊は来年の四月に予定しております。記事も、学生の紙面をもうけ、クラブ活動や各方面の研究・動行を掲載するつもりです。会員間のニュース面を多くするため、原稿を申し出てください。又ご意見、マンガ、写真なども送って下されば、楽しい校友会報となることと思います。

入学案内

◆大阪産業大学
◆大阪産業大学短期大学部

〔募　集　要　項〕

●**募集学部**　経営学部―経営学科
工　学　部―機械工学科・交通機械工学科・土木工学科
短期大学部―自動車工業科

出願資格　推せん入学と試験入学があり推せん入試は工学部は昭和48年12月15日（土）・経営学部と短期大学部は12月16日（日）
一般一次入試は昭和49年1月27日（日）二次入試は同3月12日（火）

学校案内―入学試験要項ご入用の方は下記へご連絡下さい。
〒574　大阪府大東市中垣内3の1の1
大阪産業大学入試事務室へ
TEL大東0720(71)1251（内線203）

◆大阪鉄道高等学校

〔募　集　要　項〕

昭和49年度大阪鉄道高等学校の生徒募集要項は一部未定ですが決定しているのは下記の通りです。

●**募集科**　普通・商業・土木建築・電気・自動車・機械の各科
●**試験日**　昭和49年2月15日（金）（筆記試験）

学校案内生徒募集要項の必要な方は下記へお申出下さい。
〒536　大阪市城東区古市一丁目20番26号
大阪鉄道高等学校入試係
TEL(06)939―1491（代）